

毛細血管拡張性運動失調症について

病名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
毛細血管拡張性運動失調症	<p>◇症状</p> <p>・毛細血管拡張性運動失調症は T 細胞欠損を原因とし進行性の小脳性運動失調、眼、皮膚の毛細血管拡張、再発性副鼻腔肺感染を引き起こす。運動失調は通常、小児が歩き始める時期に現れる。神経学的症状が進行すると、重度の障害となる。話し方は不明瞭になり、舞踏病アテトーシス様運動および眼振が現れ、筋衰弱は通常筋萎縮へと進行する。毛細血管拡張症は 4～6 歳まで現れないこともあるが、眼球結膜、耳、肘前窩および膝窩、頸部外側に最も顕著に現れる。再発性副鼻腔肺感染は、再発性肺炎、気管支拡張症、慢性の拘束性肺疾患を招く。生物質または静注 Ig による治療は、ある程度効果があるものの、中枢神経系の異常に効果的な治療法はない。</p> <p>(メルクマニユアル医学百科 : HP より)</p>	